

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	3	0	静養や更衣などの専用部屋がない。 用途や活動によって、部屋の使い分けをしたり、カーテンやパーテーション的なものも机分けなどで対応する。
	2	職員の配置数は適切であるか	7	1	0	基準は適切に満たしているが、長期休暇などの状況により必要人員を検討していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	2	0	建物はバリアフリーとなっている。 物品備品の置く場所に注意する(積層) 活動部屋などへの手すりは検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7	1	0	エビデンスに基づきサイクルを行う。振り返りを大切に、それを活かした目標の再設定を行う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	1	0	評価表・アンケートを実施。利用者むけ保護者むけのアンケート結果を真摯に受け止め、今後に繋げていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	1	0	通信での配布やホームページの掲載も引き続き行っていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0	0	7	外部評価は取り入れていないため、来年度検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	0	法人内研修や市内での研修、支援協会や全国発達協議会報告研修会にも参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	1	0	子どもたちの想いや取り組みたい事の聞き取り方に、一層の工夫等を検討していく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	1	0	特性などを把握し、必要に応じた構造化・視覚支援などを取り入れている。家庭や学校とも連携を図る。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	8	0	0	プログラム担当を決めて全員で検討会議を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7	1	0	同じものを行う安心感とマンネリ化。各プログラムの具体的内容や取り組みを検討・工夫し、集中し楽しみながら取り組めるようにする。個々に成功体験が増やせるもの、季節行事や地域行事にも参加する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細	7	1	0	学校帰りや土曜日、長期休暇などの環

	やかに設定して支援しているか				境、時間、時期など集団支援と個々の課題を明確にして取り組む。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	1	0	個別に課題は必要なサポートを検討。放課後という短時間での活動の時は時間への配慮と工夫をする。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	2	0	支援前に打ち合わせや、日誌やケースの確認、個々での引き継ぎなどを行う。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	2	0	その日のうちに共有し対応できるよう時間や引継ぎ方法を工夫していく。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8	0	0	活動内容やメンタル面・健康面などで、項目で分け振り返り時に見やすく記録を行う。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7	1	0	家庭や学校での様子も含めてのモニタリングを行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	6	2	0	その時の状況で項目の確認、今後も熟読していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	0	0	児童発達責任者を中心に参画するが、利用させている方によっては、一番身近に思える支援員が参画するなどもある。保護者や利用者などとも相談する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	8	0	0	保護者や担任の先生方・計画相談員にも協力して頂いている。事業所の情報もしっかりと伝達していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	3	4	1	保護者の方を中心に体制を整えている。利用されている方によっては主治医からの緊急対応時の指示書を保管しておいたりもしているが、直接連絡体制を図れていないところもあるので、検討課題でもある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	7	1	1	情報共有方法や関係作りを検討する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8	0	0	保護者や相談員を中心に行っているが、状況によっては就労先を訪問し情報の提供を行っている。特に高校生に関しては事業所として就労にむけて取り組める事、取り組むべき課題等があるため連携を密にしたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	2	1	研修に参加する。

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	3	5	地域作りの一環として、地域の児童館との交流連絡体制、参加する子どもの想いも確認しながら、来年度の検討課題とする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	5	2	1	法人としての参加、部会への参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	0	0	利用後・お迎えなどでは様子等の引きつぎを大切にしている。また伝えられなかった事はその日のうちに訪問や電話等、個別面談を行う。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	3	5	0	職員の知識不足がある。研修等に参加しスキルアップしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	0	0	重要事項説明書を中心に、負担費などは年度初めやその都度連絡配布や説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	2	0	随時お話を聞かせていただいているが、適切な対応が出来るよう今後も努力する。そのためのスキルアップ研修も行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	2	0	臨床心理士を含めた座談会や、親子活動はあるものの保護者会などはない。来年度保護者の意見等も確認し検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	1	0	苦情は出来るだけ迅速に対応するよう心掛ける。また意見などは貴重なものと真摯に受け止め、サポート・支援・活動などに反映していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8	0	0	定期的法人広報誌、事業所として保護者用・利用者用で通信を発行している。情報の発信方法・内容は今後検討していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	8	0	0	細部に関しても注意・配慮する。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	0	0	ホワイトボードや工程表・手順表を作成する。個々に配慮した視覚表示や説明方法準備を行っていく。そのための事業所・法人内の勉強会や研修参加も怠らない。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4	3	来年度の検討課題とする。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	2	0	説明の機会を設けたが、わかりにくい部分もある。内容等、法人としても検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7	1	0	防災センターの体験も行った。活動の一環として利用者・スタッフ共に行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	0	0	講師をお招きして法人全体で虐待防止研修を行っている。事業所としても事例検討も行っている。

41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7	1	0	上記の研修内容にも組み込まれている。必要な場合に関しては保護者と話し合いや面談を設定。本人への説明も忘れずに行う。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	3	0	保護者を中心に連携している。おやつ作りや昼食作りの時はメニューへの配慮や、使用している道具の取り扱いも注意する。法人として細部の検討も行っている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	3	0	ヒヤリハット集を事務所でいつでもみられるようにしている。記入しながらもその事について話をする機会も設けている。リスクマネジメント、危機対応の研修も予定している。